

# JIS

## 鉍石中の金及び銀の定量方法

JIS M 8111 : 1998

(2003 確認)

(2008 確認)

平成 10 年 8 月 20 日 改正

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

著作権法により無断での複製、転載等は禁止されております。

## まえがき

この規格は、工業標準化法に基づいて、日本工業標準調査会の審議を経て、通商産業大臣が改正した日本工業規格である。

これによってJIS M 8111 : 1963は改正され、この規格に置き換えられる。

---

主務大臣：通商産業大臣 制定：昭和 25.12.1 改正：平成 10.8.20

官報公示：平成 10.8.20

原案作成協力者：日本鋳業協会

審議部会：日本工業標準調査会 非鉄金属部会（部会長 神尾 彰彦）

この規格についての意見又は質問は、工業技術院標準部材料機械規格課（☎100-8921 東京都千代田区霞が関 1丁目3-1）にご連絡ください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第15条の規定によって、少なくとも5年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

## 鉱石中の金及び銀の定量方法

M 8111 : 1998

## Method for determination of gold and silver in ores

**序文** この規格は1994年第1版として発行されたISO 10378, Copper sulfide concentrates—Determination of gold and silver contents—Fire assay gravimetric and atomic absorption spectrometric methodを元に作成した日本工業規格である。

なお、試験報告書は、日本工業規格として必要としないため省略してある。

**1. 適用範囲** この規格は、鉱石中の0.5 g/t以上1 000 g/t以下の金及び1 g/t以上1 500 g/t以下の銀の定量方法について規定する。ただし、他の日本工業規格で金及び銀の定量方法が規定されている鉱石には適用しない。

**備考** この規格の対応国際規格を、次に示す。

ISO 10378 : 1994 Copper sulfide concentrates—Determination of gold and silver contents—Fire assay gravimetric and atomic absorption spectrometric method

**2. 引用規格** 次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。これらの規格は、その最新版を適用する。

JIS K 0050 化学分析方法通則

JIS K 0116 発光分光分析通則

JIS K 0121 原子吸光分析通則

JIS K 8090 酸化鉛(II)(試薬)

JIS K 8885 二酸化けい素(試薬)

JIS M 8083 ばら積み非鉄金属浮選精鉱のサンプリング方法

JIS M 8101 非鉄金属鉱石のサンプリング、試料調製及び水分決定方法

JIS Z 8401 数値の丸め方

JIS Z 8402 分析・試験の許容差通則

**3. 一般事項**

**3.1 共通事項** 定量方法に共通な一般事項は、JIS K 0050、JIS K 0116及びJIS K 0121の規定による。

**3.2 定義** この規格で用いる主な用語の定義は、次による。

- a) **けい酸鉱** けい酸を主成分とし、還元力及び酸化力をほとんどもっていない鉱石。
- b) **酸化鉱** 酸化鉄(III)、酸化マンガン(IV)などを含有し、酸化力をもっている鉱石。
- c) **硫化鉱** 硫化物を含有し、還元力をもっている鉱石。
- d) **還元力** るつば融解において、規定量の金属鉛(鉛ボタン)を得るために添加する硝酸カリウム(硝石)などの酸化剤を還元する力。
- e) **酸化力** るつば融解において、所定の鉛ボタンを得るために添加する小麦粉などの還元剤を酸化する力。
- f) **調合** 試料のるつば融解において、30~40 gの鉛ボタンを生じ、かつ、試料主成分などをスラグとして分離するのに適する量の試料、酸化鉛(II)及び融剤をはかり合わせる操作。
- g) **るつば融解** 融剤と混合した試料を粘土るつばを用いて還元状態で融解し、金、銀及びその他の貴金属元素を鉛